

平成 29 年度

事業報告書

社会福祉法人 福岡ケアサービス

ケアハウス「桜ガーデン生の松原」(ケアハウス)  
グループホーム「安養」(認知症対応型共同生活介護)  
福岡ケアサービス・ケアプランセンター(居宅介護支援事業)  
福岡ケアサービス・ヘルパーステーション(訪問介護事業)

グループホーム「花安養」(認知症対応型共同生活介護)  
小規模多機能ホーム「桜さろん」(小規模多機能居宅介護)

特別養護老人ホーム 初花(介護老人福祉施設)  
ショートステイサービス 初花(短期入所生活介護)

福岡市立老人福祉センター「福寿園」(管理運営)

平成 29 年度は、法人運営としては理事会、評議員会の組織改編からその運営等滞りなく健全な運営に努めることが出来ました。全体運営を通しての概括として①事業運営②組織運営に区分すれば、①特に介護保険事業所全体の利用待機者の減少、新規利用者の確保について困難さがあり、とりわけ入退去期間の伸長等幾分かの課題は見られましたが、事業所間の情報共有等をもってその課題解決を図る事が出来ました。②に関しましては、前年度から引き続き、拠点ごとに役割を明確にし、拠点、事業所ごとの「小さな組織づくり」を行い、徐々にその成果が見えてきています。人材確保、育成に関して、今後も重点課題になろうことから組織間連携を図る中で環境改善含め行いました。確保策に関しても様々な求人媒体を活用しながらその機会の拡大を図りました。

その他、ふくおかライフレスキュー事業、また圏域ごとの地域ネットワーク会議等へ参加を通して、今後の地域包括ケアの展開に向けての法人、事業所としての役割を担うことが出来ました。

平成 30 年度は介護保険・報酬の改定により「自立支援・重度化防止」並びに医療連携等の課題に対して組織間連携をさらに強化し、また地域に向けた取り組みをさらに促進させていきます。

## 《重点目標》

### (1) 法令遵守とリスクマネジメントの徹底

今年度、下山門拠点2事業所が事業所更新年度となり、更新申請手続きを行うことが出来ました。それに伴い改めて運営体制の確認を行いました。

上記に付随して、拠点ごとに事業運営における再確認・見直しを行いました。

### (2) 人材育成・研修体系の確立

今年度も定期採用に向けた取り組みを行っており、今年度も高校並びに専修学校等から人材の確保のための取り組みをハローワーク等と協働しながら図りました。

また、介護専門職の養成校からの実習の受け入れ、並びにボランティアの受け入れ等についても積極的な受け入れを行いました。

チームリーダーを対象に、リーダー研修を実施しました。

### (3) 地域社会のニーズに応えるサービスの提供・開発

前年度に引き続き、地域における会合等に参加させて頂くなど、また「ふれあいさろん」へも継続的に参加させて頂くことが出来ました。各圏域の地域包括支援センター等が中心となって実施する地域貢献等に参加や、法人としてふくおかライフレスキュー事業への参加することを通して今後の社会ニーズに応えるための取り組みを行いました。

【平成 29 年度 内部研修実績】

月 日	内 容	講 師	参加
4 月 27 日	基本理念、基本方針の確認・各種法令の確認	理事長	30 名
6 月 8・22 日	感染症(食中毒)予防について (演習)	感染対策委員会	60 名
7 月 13 日	チームワーク形成についての取り組み(事例発表)	各代表者	26 名
8 月 3・17 日	身体拘束廃止・虐待防止について (講義・演習)	身体拘束委員会	50 名
9 月 7・21 日	介護事故(講義・演習)	事故防止委員会	45 名
11 月 2・30 日	感染症対策について (感染症) 講義	白十字病院 NS	56 名
2 月 9 日	救急法について	事故防止委員会	10 名
3 月 8 日	認知症ケア・事例報告	研修委員会	38 名

【平成 29 年度 外部研修実績】

日 時	研 修 名	主 催	参加
5 月 18 日	認定調査員新任調査員研修	福岡市	1 名
5 月 22 日	給食施設従事者研修会	福岡市	2 名
6 月 13 日	新任職員研修Ⅱ	福岡市社会福祉協議会	1 名
6 月 4 日	認知症介護実践者研修	ふくおか福祉サービス協会	1 名
6 月 21 日	給食施設従事者研修会	福岡市	2 名
7 月 6 日	新任職員研修	福岡県老人福祉施設協議会	1 名
7 月 10 日	主任・リーダー研修	福岡県老人福祉施設協議会	2 名
7 月 11 日	衛生講習会	西保健所	1 名
8 月 28 日	認知症の方への食支援アプローチ	全国高齢者施設看護師会	2 名
8 月 16 日	ケアマネージャー等計画作成担当者研修	ふくおか福祉サービス協会	1 名
8 月 21 日	介護職員技術向上研修	麻生教育サービス	1 名
8 月 28 日	生活に役立つ動作介助	介護実習普及センター	1 名
8 月 29 日	介護労働者雇用管理責任講習	ランゲート株式会社	1 名
9 月 28 日	給食施設従事者研修会 (食中毒予防)	福岡市	2 名
10 月 14 日	認知症介護実践者研修	ふくおか福祉サービス協会	3 名
11 月 9 日	感染予防講習 (ノロウイルス)	西保健所	3 名
11 月 14 日	西区給食施設従事者研修会	西保健所	2 名
12 月 14 日	認定調査員現任研修	福岡市	1 名
1 月 31 日	認知症介護実践者研修	ふくおか福祉サービス協会	2 名
1 月 25 日	嚥下食の基礎	福岡県老人福祉施設協議会	1 名
2 月 22 日	結核予防研修会	西保健所	2 名
2 月 7 日	給食施設従事者研修会 (糖尿病食)	福岡市	2 名
3 月 5 日	福岡市認知症対応型サービス事業管理者研修	ふくおか福祉サービス協会	1 名
3 月 21 日	小規模多機能ケア研修会	福岡市小規模多機能ケアネットワーク	2 名

# 平成 29 年度事業報告書

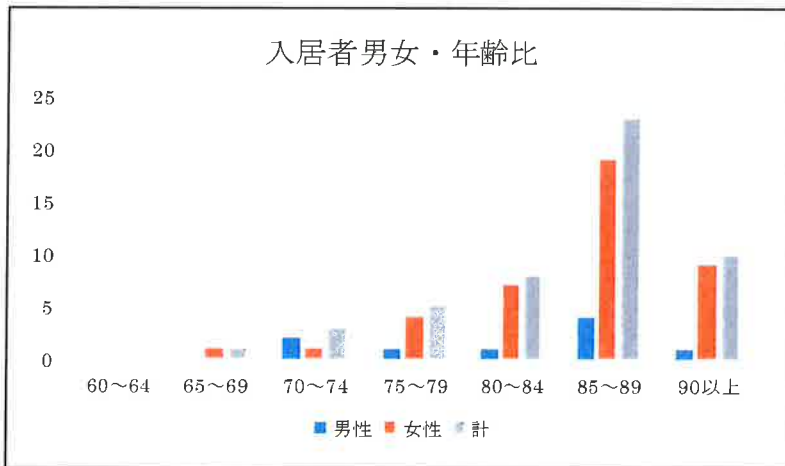
事業所名：ケアハウス桜ガーデン生の松原

## 1. 全体状況

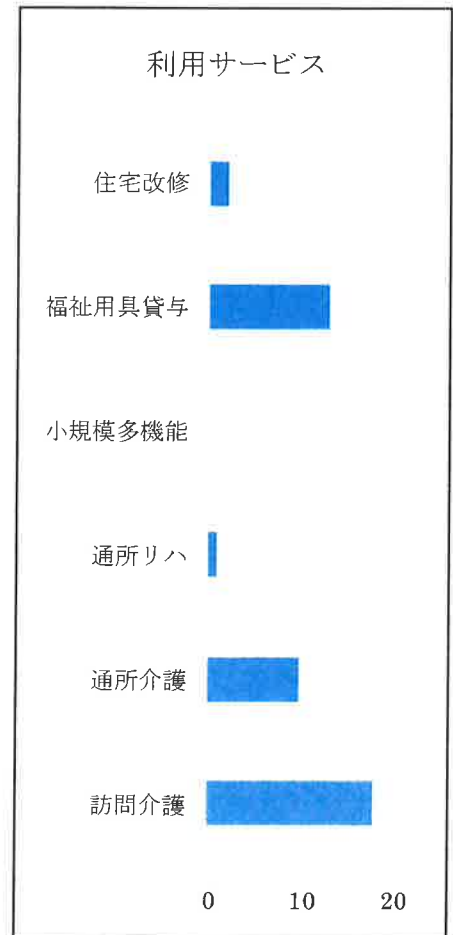
今年度も入居状況は平均 50 名ペースで、年間を通して 100%の入居率を維持することができた。退居された方は 7 名で退去理由の内訳としては、1 名が一般住宅への退去、法人内の小規模多機能ホームへの移行が 1 名、法人内のグループホームへの転居が 2 名、外部の住宅型有料老人ホームへの転居が 2 名、1 名が死亡退去という内訳で前年度の退去者数 12 名と比べれば 5 名減となった。退去後、3 名を法人内の関連施設でお受け入れすることができ、年間を通して空室を作らない運営ができた。これは法人理念にもあるよう地域社会の共生を目指し、地域高齢者の受け皿なるべく、西陵校区担当地域包括支援センターや近隣病院等からの新規入居者の積極的な受け入れを行った結果、近隣住民の皆様のお問い合わせ、申し込みを多数いただき、入居者の確保ができたと言える。

## 2. 入居者状況

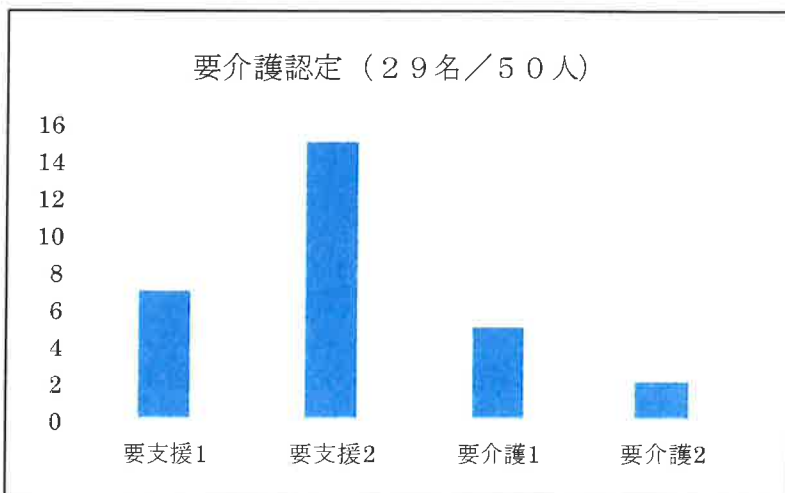
【図 1（平均年齢 84.4 歳 最低 67 歳 最高 98 歳）】



【図 3 サービス種類】



【図 2 要介護認定者割合 50%】



# 平成 29 年度事業報告

事業所名：グループホーム安養

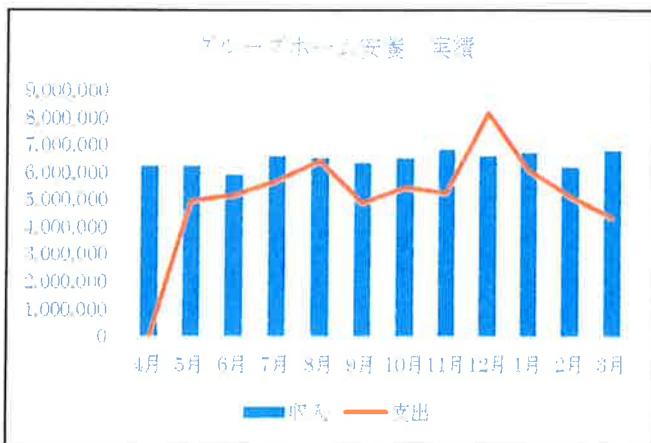
## 1. 全体状況

本年度は前年度と比較し、入院率が低減でき、年間通して安定した運営が出来た。前年度同様、職員の異動等の事由、ご利用者の重度化、高年齢化の伸長に伴いケアスタッフに係る負担の増加部分も課題ではあったが、スタッフ間の役割の分散、明確化を図る中で、連携が円滑に行えるようになった。またユニットそれぞれの入居者に対応出来る知識を持つことを目的として日頃から勉強会を定期的に行いながらスキルアップに努めております。また働きやすい職場環境作りを行いながら職員の維持を心掛けた。

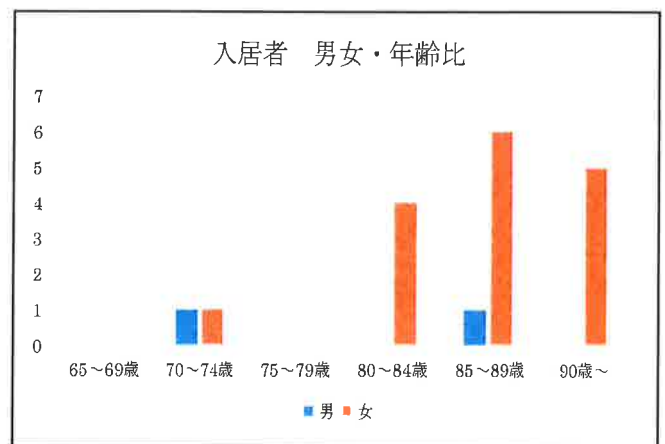
職員も新たに入れ替わり基本に戻り接遇に重点を置く、入居者様が精神・身体的に安心出来る対応と情報の共有化で様々なりスクに対応出来る仕組みの構築を行います。

## 2. 入居者状況

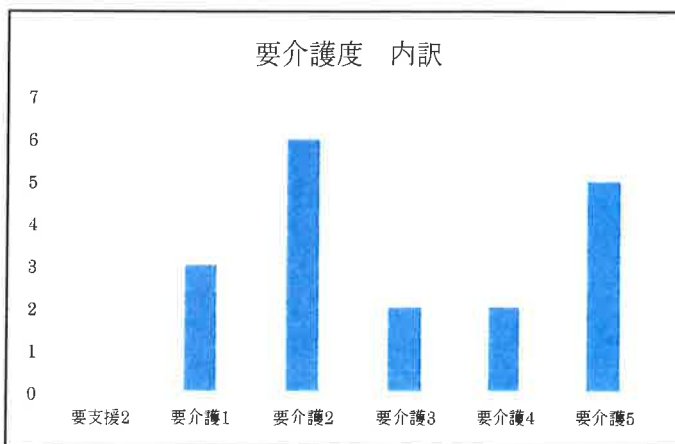
【図 1】



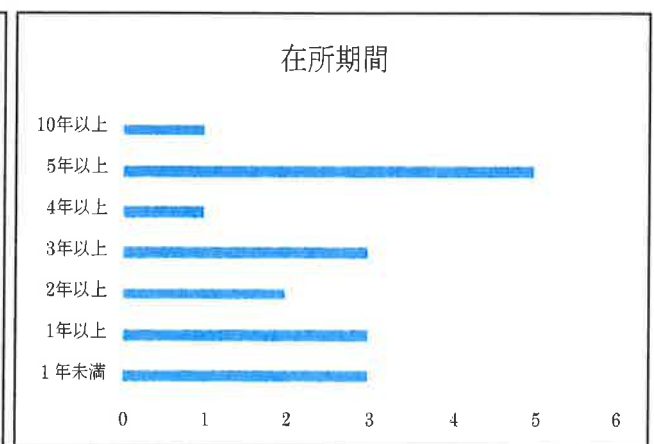
【図 2 (平均 84.4 歳 最低 73 歳 最高 97 歳)】



【図 3 (平均介護度 3.0)】



【図 4】



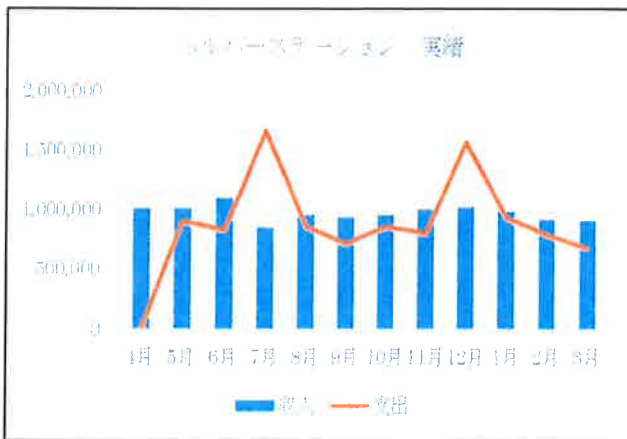
# 平成 29 年度事業報告書

事業所名：福岡ケアサービスヘルパーステーション

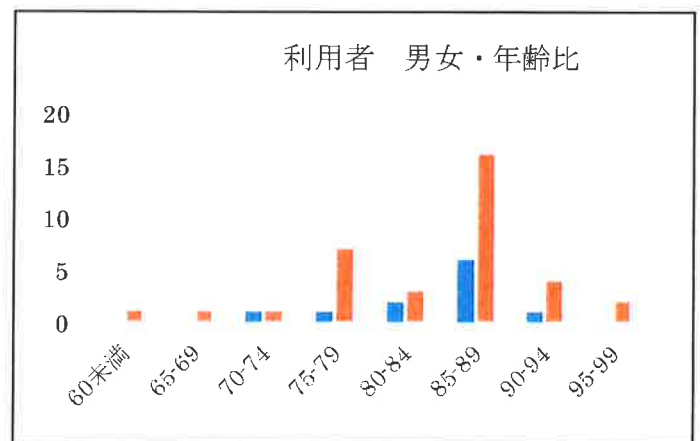
## 1. 全体状況

前年度に引き続き、登録型ヘルパーの人材が困難であり、且つヘルパーの高年齢化や家庭の事情による出勤日数減と相まって、新規利用者の受け入れ困難が生じることがあった。また昨年度は総合事業のスタートの初年度ということもあり運営面にも大きな課題があった。在宅サービスの近年の特徴であるが、利用者の施設入所が相次いだ為、区分変更の可能性の高い要支援認定者を受け入れ底上げを試みることを始めた。また以前から介護保険外サービス提供の要望を利用者様や新規の問い合わせの段階で受けており、利用開始後も保険外サービス提供を行っていない為に他事業所へ変更されることもあった為、自費サービスの提供を法人に検討頂き 30 年 4 月から提供開始する運びとなった。他事業所からの問い合わせは多く頂いている為、利用者受け入れが可能となるようスタッフの確保と常勤だけでなく登録ヘルパーも可能な限り介護講習会等に参加することで、ケアの質の向上を試みたい。

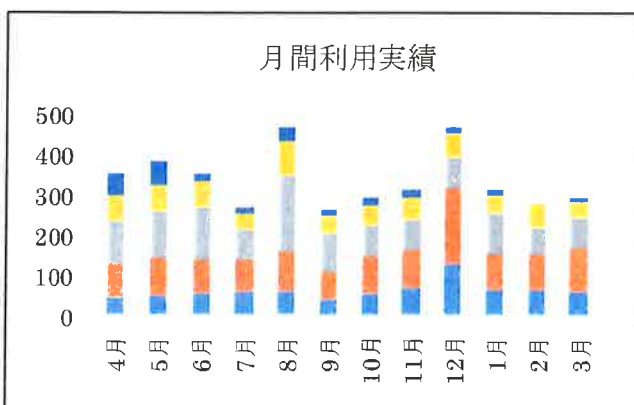
【図 1】



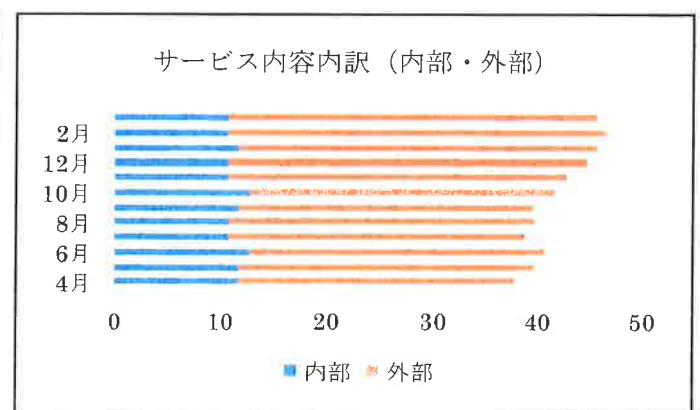
【図 2 (平均 85 歳 最低 65 歳 最高 96 歳)】



【図 3 介護比率 41.3%】



【図 4 内部 27.8%】



# 平成 29 年度事業報告

事業所名：グループホーム花安養

## 1. 全体状況

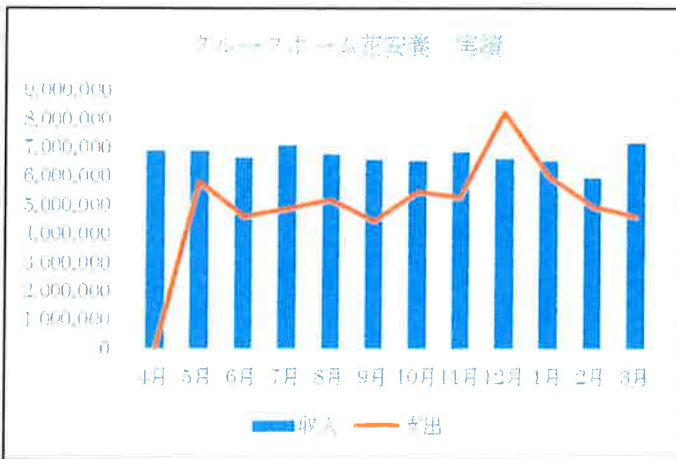
入退去の状況については、年度内の退居者 4 名、入居者 5 名の動向があり、現在 定員 18 名満床である。法人内のケアハウスや小規模多機能からの入居もあり、スムーズに情報交換を行いながら空室期間の減少につながっている。

感染症状況については、1 月に事業所内でノロウイルス・インフルエンザ感染症を発症した。ただちに感染拡大防止対策をとり、集団感染を防ぐことが出来た。入居者及び面会者・職員への手洗い・うがいの徹底。及び換気や空調管理に努めており、以降発症者はでていない。

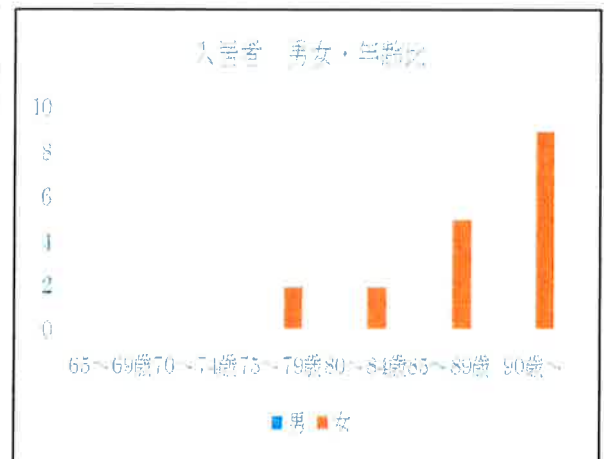
入居申し込み待機者については、3 月に再度確認を行った。現在の待機者は 8 名であるが、緊急を要しすぐに入居したいと考えられている待機者は 1 名である。近隣にも複数の入所施設が出来ている状況から、入所申込み者の確保が大きな課題となっている。また、年間を通して入退院数が多く見られた為、事故を未然に防ぐ努力と利用者の体調管理を徹底したい。

## 2. 利用者状況

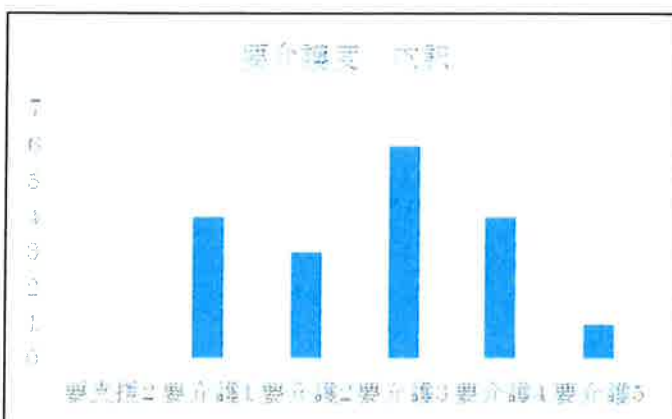
【図 1】



【図 2 (平均 84.4 歳 最低 79 歳 最高 96 歳)】



【図 3 (平均介護度 2.7)】



【図 4】





# 平成 29 年度事業報告書

事業所名：福岡ケアサービス・ケアプランセンター

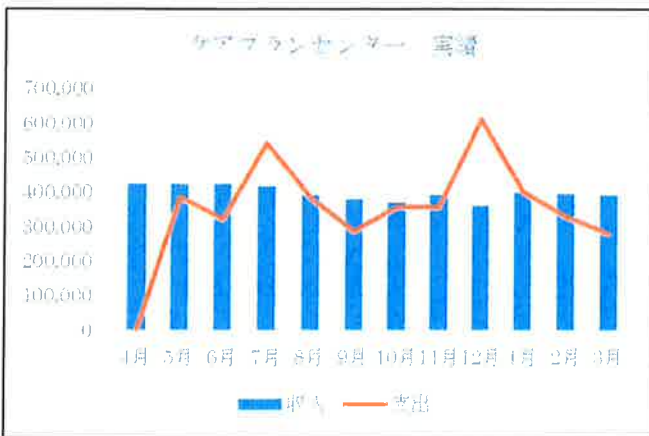
## 1. 全体状況

平成 29 年度後期は、要介護者が要支援になられたり、特別養護老人ホームやグループホーム等の待機者が比較的短期間に入所されるケースが多くみられた。申込みに関しては、退院後に入所が決まるまでショートステイの連続利用を利用されるケースや地域包括支援センターからの紹介が主であった。新規申し込みがあっても、入所等で利用中止になる方も多く、件数の相対的な増加にはつながる事には至らなかった。運営面としては、困難事例やそれ以外でも地域包括支援センターや他事業所との連携を図ることにより、問題解決に取り組む事が出来、市との連携も円滑に行うことが出来た。

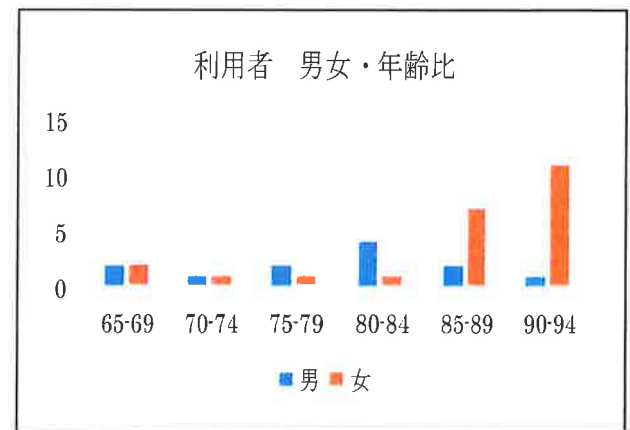
今後も更に他機関連携を図りながら、特に医療連携を重点としながら運営を図りたい。

## 2. 入居者状況

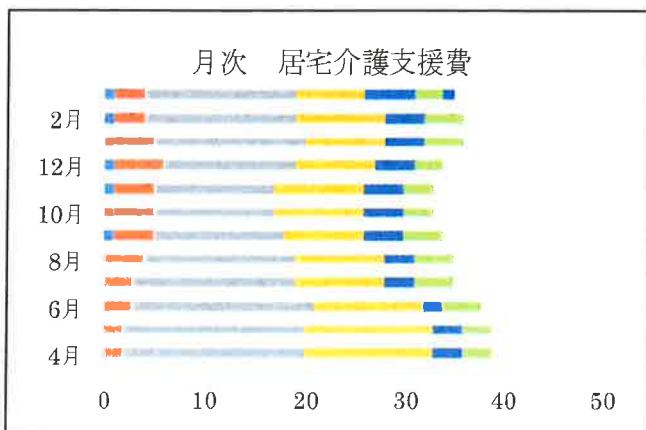
【図 1】



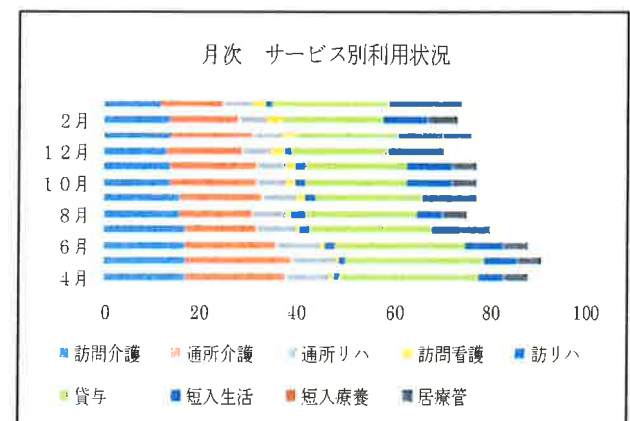
【図 2 (平均 84.4 歳 最低 66 歳 最高 99 歳)】



【図 3】



【図 4】





## 平成29年度事業報告書

事業所名 小規模多機能ホーム 桜さろん

### 1. 全体状況

年度内は月平均15.6名の契約数で推移し、昨年度比として利用向上を図る事が出来ました。

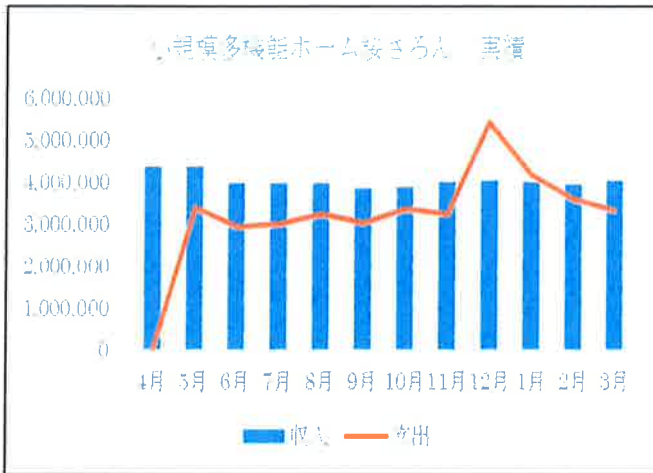
利用状況詳細については、新規利用者が7月に1名、8月に1名、2月に1名、が利用開始となっており、合計3名が新規契約。利用終了者は5月に1名、6月に1名、7月に1名、1月に1名となっており、合計4名が利用終了となっている。

登録者数は年度初めに比べ減少している。平均介護度は、2.68。

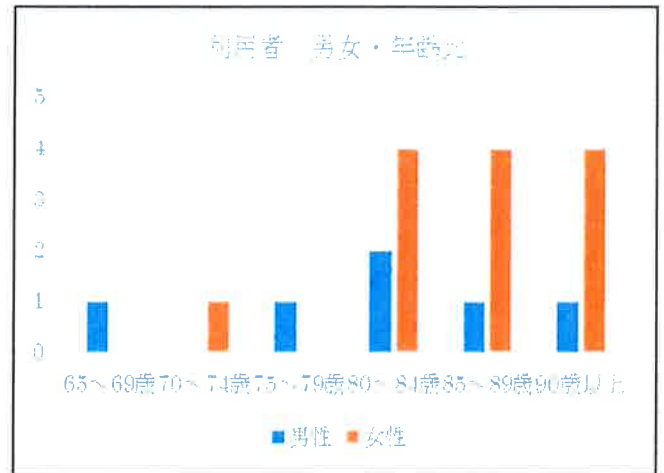
来年度は、介護保険改正に伴い、中重度の利用者確保が必要となってくる。

### 2. 利用者状況

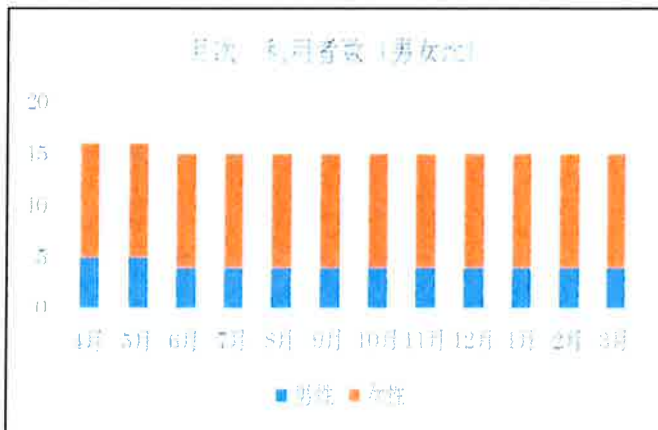
【図1】



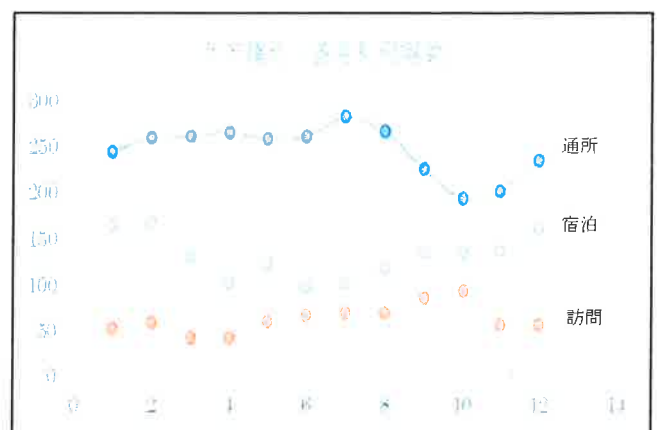
【図2 (平均 84 歳 最低 67 歳 最高 97 歳)】



【図3 (年間平均 15.2 人)】



【図4】



# 平成29年度事業報告書

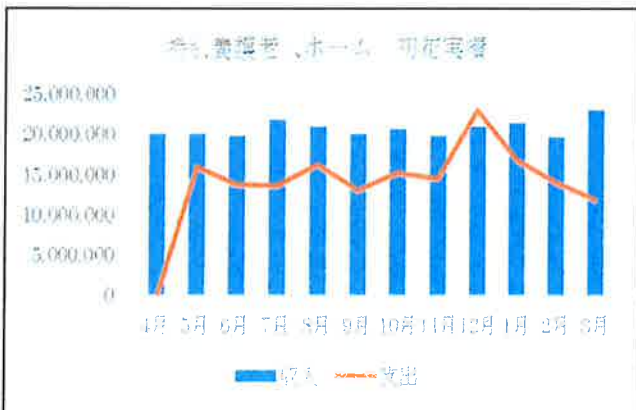
事業所名 特別養護老人ホーム 初花

## 《全体状況》

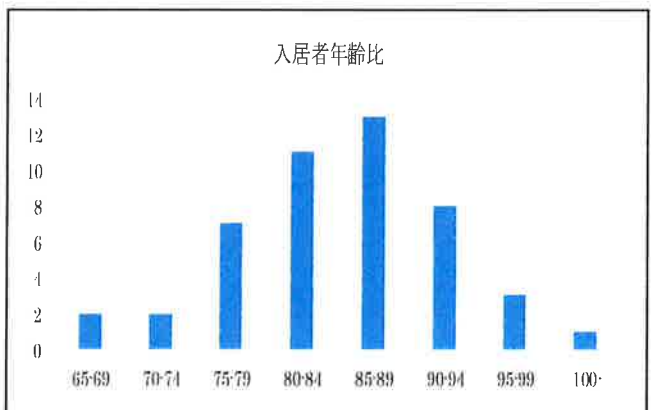
平成29年度は入居及び短期入所サービスの実績から年内の退去者は14名、新規入居者は13名と前年度に比して著しく入退去等変動が大きかった。平成27年度入居対象者の重点化施策により原則要介護3以上、また加算要件を加えると、新規入居者の70%以上が要介護4以上要件と相まって重度化の伸長が大きな影響を与えている状況である、それに伴い、医療ニーズの増大、介護にかかる手間の増大等により開設時より業務の増大が大きな課題となっている。その中で、近隣に同様他施設の設置などの状況から、施設待機者の激減は大きな課題となっており、外部の関係機関との連携も今後の課題となってくる。但し、ショートステイの延利用者数を比較すると、H27 -136名/年間H28-155名/年間であったのに対して、H29-221名/年間と在宅の支援機関等との調整が比較的円滑に行えている状況が伺えることから、在宅へのサービス事業所としての役割を更に増大させていくことを通して、ご利用、入居等に繋がる取り組みへと望まれるところである。

またご入居者のニーズ・状態に合わせた細やかな対応していくためにも、技術、知識の向上を今後も高めていく必要がある。目下、最後に、職員個々のケアに対するモチベーションの向上、働きやすい環境づくりに引き続き重点課題とする。

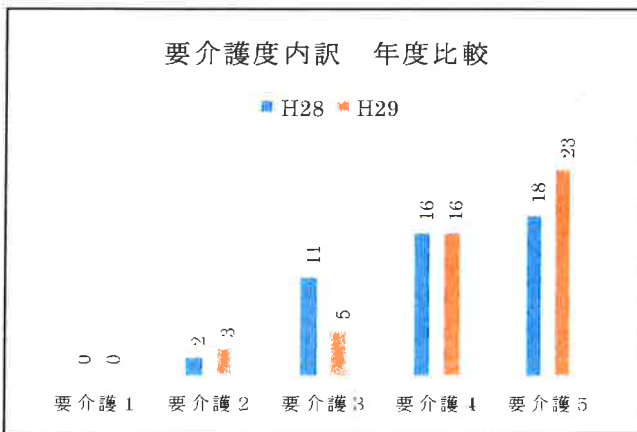
【図1】



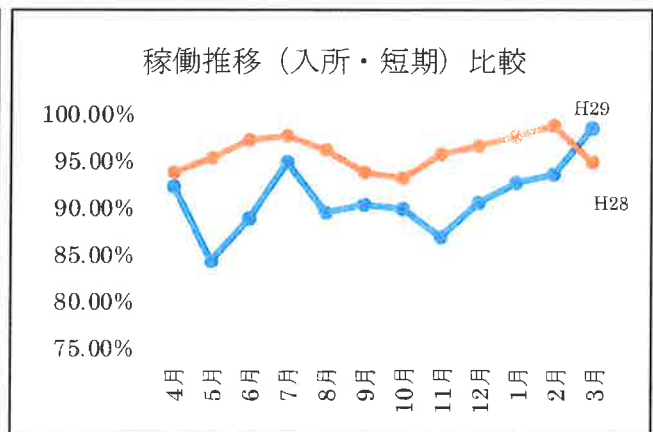
【図2（平均84.68歳）】最高100歳 最低68歳



【図3（平均介護度 4.26）】H30.3



【図4 年間稼働率平均 92.1%】



## 平成29年度事業報告書

事業所名 老人福祉センター 福寿園

今後、超高齢者の方が、よろよろ入る風呂の姿に危惧を感じ、切れる高齢者の理不尽な言い分に閉口しながらも、皆様の心の拠り所となる、老人福祉センター福寿園でありたいと改めて感じております。一方、経年による建物、設備等の劣化は日を追うごとに増大するばかりです。今後は、これらに対する対応と対策が喫緊の大きな課題になると考えられます。センター条例が施行されてから、約半世紀近く経過している現在の社会状況はまったく様変わりしているように思えます。想像もしなかった超高齢者社会の到来の中、超高齢の方々に交通不便なセンターまで足を運ばせること、加えてお風呂を利用させること等は、危険な設備を不用意に用意しているかの恐れすら感ずることもあります。もちろん市行政も時代の変化をいち早くキャッチし、「配る福祉」から「支える福祉」への施策転換を図り、時代に沿った諸施策の検討を熱心に考えておられます。

- 1、シニア教室、高齢者創作講座は、計画通り順調に実施されました。センター企画講座は、「健康」部門として運動心身調整講座を、「栄養」部門として栄養口腔衛生講座を、「文化」部門としてパソコン講座を、「趣味」部門として布ぞうり作り講座と簡単和裁講座を実施しました。とりわけ理学療法士の運動心身調整講座や、具体的で各個人の知識に合わせた指導のパソコン講座は高い人気を博しました。
- 2、学習成果発表の場とし、茶道教室に春の野点をお願いし、また各教室の大発表会である文化祭は、企画、準備の段階から各教室の実行委員が加わり、大盛況でした。
- 3、館内に設けられた作品展示のスペースに、俳句、水彩画、写真、さげもん手芸等の作品が、時折新作品に入れ替えられながら、展示され、利用者の興味を呼びました。
- 4、前年度で、OBとなってしまった教室の利用者のサークル活動を、空き部屋、空き時間を利用して、積極的に誘致しました。この種のサークル活動は今後一層増加する傾向にあります。
- 5、高齢者個人が教室等に関係なく、自分でお創りになった作品等の趣味や教養を積極的に発表する場として、受付スペースや1階ロビー奥に設置したテーブル等を利用して展示の場を設けております。利用者から感嘆の声が上がり、提供したご本人も大満足です。
- 6、地域の団体やグループとの交流を図る場として、地域高齢者グループのジャズ演奏会、近隣中学校のプラスバンド演奏会等を開催し、鑑賞する利用者はもちろん、演者の皆さんにも大変喜ばれました。
- 7、経年老朽化した施設、設備には、絶えず気配りをし、市の積極的な協力を得ながら、早め早めの保安修理を行い、利用者が、安心して活動できる環境の提供に力を注ぎました。
- 8、一日に250人から300人以上が利用するお風呂の使用については、ほぼ1時間おきの見回りを行い、湯あたりや、怪我、あるいは席取りの争い等に、毎日神経をとがらし、注意を払っております。それでも湯あたりをする人、カラン・席取り等で言い争いをする人々が時折発生し、残念な思いもしております。